

大豆ミール需給のポイント

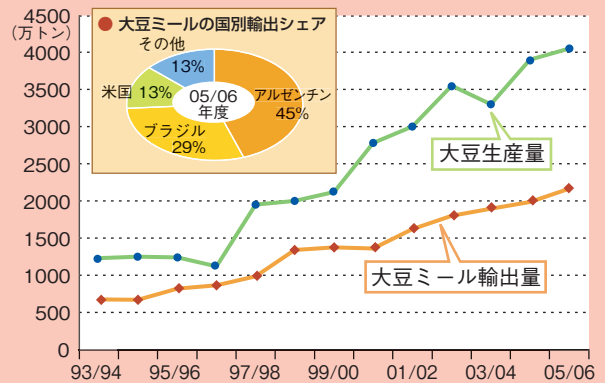
Market analysis from supply and demand

大豆ミール(大豆粕)の供給地、南米で大豆の収穫が最盛期を迎えています。大豆製品であるミールの生産は当然のことながら原料である大豆の作柄に影響を受けるため、南米の産地情報に注目が集まります。相場は国内外とも揉み合いが長引いていますが、南米の生産動向や鳥インフルエンザ問題など多くの不確定要因があります。

アルゼンチンで大豆不作懸念が浮上

世界最大の大豆ミール輸出国アルゼンチンで大豆の減産懸念が浮上しています。開花・着サヤ期の降雨不足で単収の低下は免れないとみられているからです。大豆の減産はそれを原料とする大豆ミールの生産抑制につながる可能性があるため、引き続き産地の天候と作況報告には注意が必要です。ただ、過去大豆が減産となった年でも大豆ミールの生産はほ

アルゼンチンの大豆生産とミール輸出量

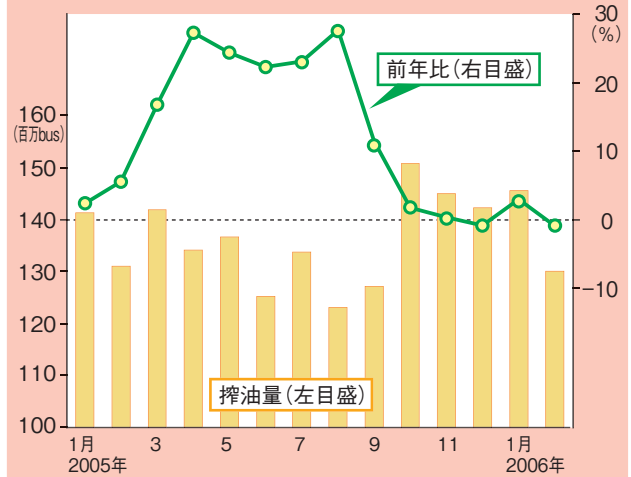


とんど落ち込んでいない(グラフ参照)ことを考えると、現在懸念されている程度の単収低下はミール生産にそれほど影響しないかもしれません。5月から本格化する同国のミール輸出が注目されます。

好調だった米国の搾油に陰り

アルゼンチン、ブラジルに次ぐ世界第3位の大豆ミール輸出国、米国における搾油状況はというと、ここへきて月間ベースで前年を下回る月がみられるなど低迷しています。昨年春から夏にかけて前年を2~3割上回っていたことからすると、その落ち込みぶりは顕著です。牛の飼養頭数は前年を上回っているため、決して国内の飼料用需要が減退しているわけではないのですが、圧搾の際同時に生産される油の在庫が前年比で70~80%も高い状態となっているため、搾油を控えざるを得なくなっています。

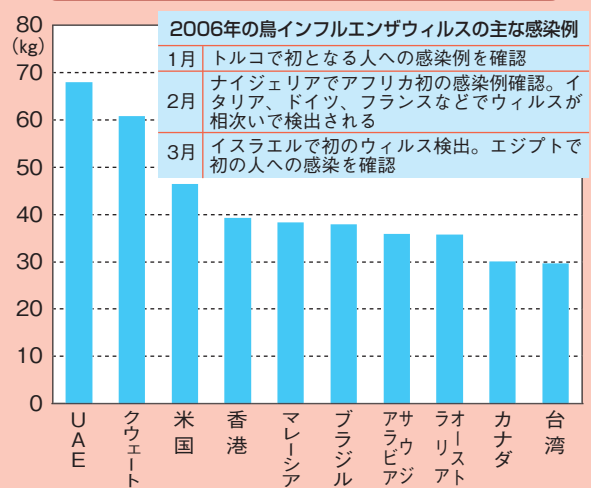
米国大豆の月別搾油実績



鳥インフルの影響は依然不透明

飼料原料として大豆ミールの配合率が最も高いのは家禽用ですが、世界的な拡散をみせている鳥インフルエンザ感染はブロイラー業界に甚大な被害をもたらしています。拡散防止には鶏の大量処分もやむを得ないため、ミール消費の減少を懸念する声も聞かれます。ただその一方で、発生確認から2年以上経過するアジア諸国では鳥インフル封じ込め策が効果を上げており、総悲観ムードは一時に比べて和らいでいるようです。ミール消費への影響がはっきりするにはもう少しばかり時間が必要だと思われます。

国民1人当たりの年間プロイラー消費量



2004年以降の大豆ミール相場の特徴

- 2004年：4月以降、原料である大豆の豊作見通しを背景にほぼ一方的な下落となる
- 2005年：前半は南米や米国の天候不安で上昇。夏以降下落に転ずるも、後半持ち直す
- 2006年：鳥インフルエンザ感染の世界的拡散による消費減退懸念から軟調に推移

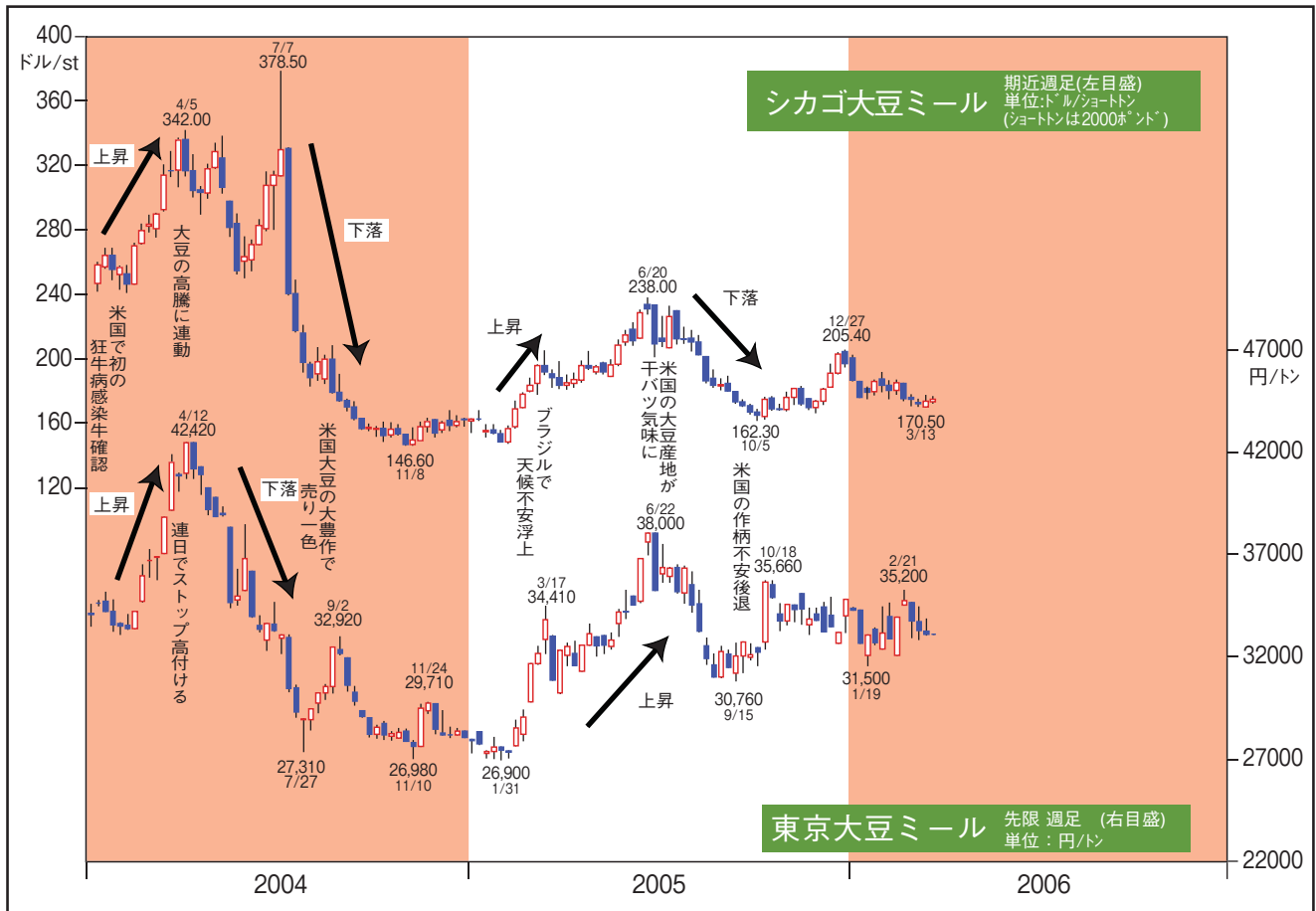
●飼料消費に影響する家畜伝染病について

狂牛病（牛海綿状脳症）

感染した牛は脳がスポンジ状になり、立てなくなったり、奇声を発したりするなど異常な行動をとる。狂牛病の牛を食べることで人間も感染し、クロイツフェルト・ヤコブ病（致死性痲呆症の変形型）にかかるといわれているが、その関連性については完全に証明されていない。

鳥インフルエンザ

鳥類がインフルエンザウイルスに感染して起こる病気。人間がかかるインフルエンザとはウイルスの型が異なる。全身症状などの強い病原性を示し、死に至ることもあるものを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼び、2004年に日本も含めアジア各地で確認されたのはこれに当たる。



注目されるシカゴの保ち合い放れ

シカゴは3ヵ月近くも170~190ドルの狭いレンジで揉み合っています。直近の1ヵ月に限れば、基調転換線となり得る「極線」が連続していることから、そろそろ保ち合い放れを想定しておいたほうがいいでしょう。過去には2004年のように150~160ドル相場が5ヵ月近くも続いた例もありますが、多くの場合は2~3ヵ月程度で再び動き出しています。仮に保ち合いが長引いたとしても、それこそ2004年のようにその後、急上昇して大相場に発展するケースもあります。揉み合い相場といって侮ってはいけません。

安値が揃ってきたら要注意

現在揉み合っている価格水準から考えて、放れるとすれば上方の可能性が高いでしょう。安値圏にあることは間違いのないため、ここで実体の2~3倍に相当するような長い下ヒゲを伴うローソク足が出たら、上昇転換のサインと捉え、売りは控えるのが得策です。東京は3万2000円近辺で下値が支えられている確りした相場ですから、シカゴが動き出せば今年2月や昨年10月の高値3万5000円を十分狙えます。3万2000円辺りまで下落しても、それを大きく下回ることなく、その水準で安値が揃ってきたら反転が期待できます。